

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070502283		
法人名	医療法人 聖心会		
事業所名	グループホーム ベル・エポック (2階・3階)		
所在地	〒800-0206 福岡県北九州市小倉南区葛原東三丁目14番50号 Tel. 093-473-5611		
自己評価作成日	令和05年06月22日	評価結果確定日	令和05年09月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel.	093-582-0294
訪問調査日	令和05年08月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったり、のんびり、楽しくをモットーに運営開始から20年が経過しました。個人の尊厳、思いを大切に支援していきます。認知症になったとしても、その方の思いをくみとり適切な支援が出来るように運営していきたいと思っております。その為、毎月一度の研修をし、勉強会を行っています。また日頃から職員間で情報の共有、意見交換を行うようにしています。職員間で心をつなぐ良いチームを作りお一人お一人を支えていけるようにし職員の教育が大事です。ご家族間との連絡も密に行い、日頃の生活や健康状態、精神状態を説明、報告させて頂いております。運営が20年経過しまして入居者様も高齢化し、医療支援も増えてきました。整形外科と内科を併設しております。異変があればすぐに看護師、医師と連携出来る体制を整えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体医療法人 聖心会が、地域の要望に応じて19年前に開設した定員18名の地域密着型グループホームである。新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行されたことを受け、病院受診の帰りに近くの公園を散歩する等、人混みを避けながら個別に出かけ、利用者の気分転換を図っている。隣接するデイケアセンターで理学療法士によるリハビリに取り組み、利用者の重度化が進む中で身体機能の維持向上に努めている。母体医療機関医師や看護師との連携、外部の内科医の定期往診、入居前からのかかりつけ医への受診支援等、利用者や家族の希望に沿って臨機応変に対応し、適切な医療が受けられるよう取り組んでいる。令和5年3月から着任した2名の管理者を中心に職員がチーム介護に取り組み、基本理念である、「ゆったり・のんびり・一緒に・楽しく」の実現に向けて努力を続けている、グループホーム「ベル・エポック」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念に「ゆったり、のんびり、楽しく」を掲げ、そう実践出来るように、研修やミーティングの時は掲げたスローガンに添えるようにするにはどうしたら良いかを話し合っている。	基本理念、「ゆったり・のんびり・一緒に・楽しく」を各ユニットのエレベーターホールに掲示し、ミーティングや毎朝の申し送り時に、理念に沿った介護サービスが出来るかを話し合っている。また、入職時にはマニュアルに基づいて管理者がオリエンテーションを実施し、理念の周知を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ここ数年は、交流は出来ていない。これから徐々に町内会長さんや民生委員さんと話し合いを始めていこうという段階である。	町内会に加入し、地域の情報(行事や活動)を把握して廃品回収に協力する等、少しずつ地域の一員としての交流が始まっていたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。医療とリハビリが充実したグループホームとして、地域からの信頼も厚く、利用者が住み慣れた地域の中で安心して暮らす事の出来る環境を整えている。	母体医療法人が築いてきた地域医療に基づいた地域との信頼関係を活かしながら、地域の一員としての交流、情報の発信、介護相談事業等、地域から頼りにされるグループホームを目指すことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在地域への貢献はあまり出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、書面での対応のみ。	管理者交代の為、令和5年3月から運営推進会議は開催されていない。管理者は、運営推進会議の委員である町内会会長、民生委員に挨拶に出向き、今後の対面での会議再開時の参加、協力をお願いしている。	コロナ収束後に向けて、参加委員の増員を図り、法人内の専門職や薬局、司法書士等に交代で参加してもらったり、近隣の他事業所管理者と相互参加する等、会議の活性化に向けた取り組みを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村との関わりは運営会議で書類のみの交流である。今後は積極的に協力関係を構築していきたい。	管理者は、行政担当窓口、ホームの空き状況や事故報告、疑問点についての相談を行い、連携を図っている。運営推進会議の委員として地域包括支援センター職員との関わりがあり、ホームの現状を報告し、アドバイスや情報提供を受け協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、3ヶ月に一度研修を行っている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催し、定期的に研修を行い、身体拘束をしない具体的なケアについて確認している。職員は、言葉や薬の抑制も含めた拘束が利用者に及ぼす弊害について理解し、禁止行為の具体的な事例を挙げて検証し、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、具体的な事例から学び、職場の中でもこんなことがあった、この場合はどうすれば良かったのか、もっと他に言い方がなかったのか等エポックの事例から意見交換し情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の参加は出来ていない、現在は成年後見制度を利用されているご家族はおられない。しかしながら研修で学ぶ機会を作り、活用できるように準備しているところである。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の資料やパンフレットを用意し、必要時には、制度の内容や申請手続きについて利用者や家族に説明し、関係機関に紹介出来る体制を整えている。現在、権利擁護の制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には書類の中身を読み合わせ、確認し合い書類に署名、押印をして頂き、細かく内容をお伝するようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1階エレベーター前に意見箱を設けご家族様からのご意見を頂戴するようにしている。	8月に入って、1階のエレベーターの前で10分から15分の面会を可能としている。家族面会時や電話等で、利用者の健康状態や暮らしぶりについて小まめに報告し、家族の意見や要望を聴き取り、それらの意見を出来るだけホーム運営に反映させている。	定期的にホーム便りを送付して利用者の状況を報告し、家族の安心に繋げることを期待したい。
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回、ミーティングを行っているが、それだけでは足りないので毎朝の朝礼時に運営について報告や疑問に答えたりする時間を作っている。	月1回、13時30分から、その日の日勤帯の職員と参加出来る職員が集まってミーティングを開催し、内容については議事録に残し、職員間で共有している。毎日の申し送り時にも、利用者一人ひとりについて気付いた事や対応の仕方を話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員に対し、日々の業務の中で、介護技術の向上を学ぶことで自信がつくように、わからないことをどんどん聞けるような環境作りをしている。賃金は毎年皆同じように上がるが、資格保持や能力によっても差をつけるようにしたい		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	男女、年齢によらず幅広く募集を募っている。また未経験の方でも親切丁寧に指導し人材がそだてられるようにしている。	職員の休憩時間や希望休、勤務体制に配慮し、職員が心にゆとりを持って利用者に寄り添う事ができるような、職場の環境整備に努めている。職員の顔色や体調の変化等に気づき、悩みや心配事等にも対応している。職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する思いを優先している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者様の人権を守る取り組みとして研修を通し、学ぶ機会を作っている。	利用者の人権を尊重する介護サービスについて、職員間で話し合い、利用者一人ひとりの個性や生活習慣に配慮した言葉遣いや対応を心掛けている。また、利用者への尊厳を守る介護の在り方について、職員一人ひとりが自覚して取り組めるように努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年に入り、無資格の職員には認知症初任者研修をオンラインで受講した。今年には認知症実践者研修を1名受ける予定である。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流は出来ていない。しかしながらこれから徐々に取り組んでいきたい。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の時に、ご本人様やご家族様達と面談を行い、困りことや要望を聞くようにしている。入居されてからもまたその時々により気持ちの変化もあるので度々コミュニケーションをとるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されてすぐには、とても不安が大きいと思われる。お話を丁寧に傾聴するように心がけている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時、何が困っておられるのか、必要なサービスは何かを見極めながら支援を提供するようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に行うことを心がけ、入居様が興味のあることや出来ることを探しながら共に楽しむ支援をおこなっている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の体調の変化には特に職員一人ひとりが気をつけるようにしている。ご自身の変化を言葉で言い表せない方もいらっしゃる中で、ご家族へ報告しご家族の意向を伺いどう支援するかをご家族と連携していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出が出来るようになったことで、ご家族やご本人からそういった情報を聞き、いろいろな方が面会に来られるようになったことを伝えている。	入居時に、利用者のこれまでの生活環境や人間関係について聴き取り、知人、友人の面会を歓迎している。家族の協力を得て、自宅に帰宅している方や家族が病院受診に付き添い、帰りに食事をする事を楽しみにされる等、馴染みの関係を大切にした支援に取り組んでいたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。新型コロナウイルス「5類」移行に伴い、馴染みの関係継続に向けた支援を検討している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや作品作りを共に行うことで、共通の話題が出来るように取り組んでいる。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居された方々には時折手紙を書いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症が進行し思うように言葉に出来ない入居者様達もいらっしゃるが、言葉だけでなくその時々々の表情や仕草などから思いをくみとるよう努力している。	職員は、利用者の思いや意向を聴き取り、職員間で情報を共有し、利用者一人ひとりの思いの実現に向けて取り組んでいる。自己選択、自己決定が難しい利用者には、家族やベテラン職員に相談しながら、利用者の表情や仕草から思いを汲み取るようにしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時以外にも、度々ご本人やご家族から、お話を聞いている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の体調に合わせるのはもちろんであるが、お一人お一人の好きなことやしたいことを見つけつつ、支援をおこなっている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、ご家族様、職員、PTなどの意見を聞きながら作成をしている。	担当職員は利用者や家族の意見や要望を聴き取り、毎日の申し送りやミーティングの中で検討し、現在のプランが利用者に適合しているかを確認し、その結果を踏まえて介護計画を6ヶ月毎に作成している。利用者の状態に変化があれば、家族や主治医と相談し、その都度介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護支援については、個人別に介護記録を作成し日々記録している。情報を共有する為の申し送りノートを作成している。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	エポックの場合、平均介護度が3と高いので、共に生活を行うよりも食事介助やパッド交換など身体介護に時間を要することが多い。また健康不安を訴えられる方が少ないため日頃の様子をよく観察し異常の時に柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は地域資源の活用には至っていないが、これから取り組んでいきたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、概ねこちらの職員が同行している。かかりつけ医と連携を大事にしている	利用者や家族の希望を優先し、馴染みのかかりつけ医に、職員が同行受診している。併設母体医療法人の整形外科、リハビリ科、内科、消化器科の受診が可能で、医療を特色としたホームへの安心感は大きい。日曜日や夜間等は隣接病棟看護師に相談し、内科医の支持を受けることができる安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同じ敷地内の隣に久能整形外科消化器科医院があるため、入居者様達に何かあればすぐに連絡し指示を仰ぐようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、アセスメント、個人情報、生活の様子、入院に入院に至るまでの経緯を詳細に伝える等に行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族からどのように対応するのかをお聞きし、書面に署名を頂いている	契約時に、重度化や終末期に向けた方針について話し合い、ホームで出来る支援について利用者や家族に説明を行い、了承を得ている。利用者の重度化が進むと家族や主治医と密に連携し、関係者全員で方針を共有し、最期までホームでという家族の強い意向があれば看取りにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の、急変や事故の発生への対応は研修や日頃の申し送りの中で話し合いの場を設けている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行うと共に、火災や地震水害の時の避難経路の確認は度々行っている。	防災専門業者の半年毎の点検に合わせて、5月と11月に防災訓練を実施し、通報装置の使い方、避難経路、非常口、一時避難場所の確認を行っている。各階、一時避難場所となっているベランダまでの避難誘導の訓練を行っている。	夜勤者1名で9名の利用者全員を安全に避難誘導出来る体制作りと、災害時に備えて非常食、飲料水の備蓄の充実が望まれる。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	エポックの現場の中で入居者様へ対応する中でこれは好ましくないということがあれば朝礼の中で事例を提示し意見交換している。	利用者のプライバシーを尊重する介護の在り方を、職員間で話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮し、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや対応について検討している。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	○○してください。ではなく○○しましょうか？などと問いかけるような声かけをするように指導している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食後に、今日一日にすることを説明する中で、何かしたいことがあれば聞いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、起床時に整容をおこなっている。朝の更衣の時には どれに着替えたいのか衣類を数枚だして選んでもらうようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の前にはパタカラ体操をして気持ちよく食べていただくようお願いする。	配食業者から配食される、カロリーや栄養バランスに配慮された食事を温めたり、刻んだりして提供している。炊飯は各ユニットで行っている。利用者の食事介助をしながら見守る体制で支援している。ホットケーキや団子作り等、利用者にも手伝ってもらいながらおやつ作りを楽しんでいる。	検食を行って感想を配食業者に伝え、利用者にも、より美味しい料理が提供できるような取り組みを期待したい。また、手作りの日を設ける等、「食」を楽しめるような工夫が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各個人個人、持病をお持ちの方は医師の指導の下、減塩やカロリー制限、水分量の調整などを行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1人、1人毎食後口腔ケアを行っている。ブラシやスポンジなどその方に合わせた物を使用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の訴えにたいして対応するのはもちろん、排泄チェック表を作成しお一人お一人パターンを把握し定時に誘導するようにしている。	利用者が重度化してもトイレで排泄を基本とし、職員は、利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。極力オムツを着用しないように心がけ、夜間だけポータブルトイレを使用したり、センサーマットを使用する等、利用者一人ひとりに合わせた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難な入居者様には内科の往診医と相談し便秘しないように気をつけている。水分摂取も1日1000～1200としこまめに取っていただくようにしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前には健康観察、バイタル測定を行い、それから入浴の声かけを行っている。ご本人様の医師を尊重し拒否があるときには時間を空けて再度声をかける、翌日にするなどしている。	利用者の希望や体調に配慮し、週2回を基本に入浴支援を行っている。一人で入れる方には声を掛けて週3回入ってもらうこともある。重度化の利用者も、「肩まで浸かってもらいたい」という思いで、職員2名介助で支援している。入浴を拒む利用者には、時間を置いて、人を替えて、声掛けや誘導を工夫しながら入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	無理のない範囲で日中は出来るだけ起きて頂き、夜間はゆっくりお休みしていただけるように部屋の温度、明るさ、季節にあった寝具を用意する。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように服薬介助の前には名前を呼んで「はい。」と言う返事を確認してから介助する。お薬の内容については、お薬情報のファイルを各自作り職員の目につくところに置いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	午後からおやつの時間には短い時間ではあるが入居者様お一人お一人と会話するようにしている。また一緒に歌を歌ったりする。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが第5類となりようやく春にお花見が出来た。これから梅雨が終わり熱くなってくるとまた外出は難しくなるが秋には散歩を定期的に行いたい	コロナ対策以前は、農事センターの薔薇見学や椿観賞、博物館見学等、外出レクリエーションに取り組んでいたが、現在は、リハビリの帰りに近所の公園を散歩したり、スーパーへおやつを買いに出かける等、人混みを避けて個別での外出を支援して気分転換を図っている。新型コロナ「5類」移行に伴い、外出レクリエーションの計画を検討している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在では、お金をお預かりしている入居様はいない。しかしながらやけるとが来ると職員が付き添い購入をする支援をしている。支払いは立替金で後から請求する		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方もいらっしゃる。時々電話がかかってきてないかを確認したり、操作方法がわからないときにはともに行う。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝は必ず窓を開けて空気の入換えをしている。居間でくつろげるようにソファを置いている。	3階建てビルの2、3階に位置し、利用者が集まる食堂には季節を感じ取る飾りつけをして、温かみのある空間作りに取り組んでいる。利用者の動線を考えた家具の配置を行い、静かな音楽をかけ、温度、湿度に配慮する等、利用者が心地よく過ごせる共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中に、ソファを置いたりお好きな場所でおのおのくつろいでいただけるように環境を整えている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご本人様が使用していた物や、ご家族の写真などを飾ったり、狭い部屋ではあるが落ち着いて生活ができるよう取り組んでいる。	利用者が使い慣れた馴染みの家具や寝具、生活必需品、家族の写真等、大切にされてきた身の回りの物を、家族の協力で持ち込んでもらい、利用者が安心して暮らせるよう支援している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人のADLに応じて、簡易手すりを設置したり、ベッドそばにセンサーを設置し安全に移乗、移動ができるように配慮している。		